

恩 荷

第21号

2022年(令和4年)

11月25日

題字 小玉啓太郎

ONGA

男鹿市退職校長会会報

七十の手習い

男鹿市退職校長会会長

伊藤

章



った。「学習」は「活動」となり、話し言葉（やりとり）・日本文化・情報の共有を重要視する活動にもすぐには馴染めず、素早い頭の切り替えが必要とされた。

一方、主な市販テキストの紹介及び分析やパターンプラクティス、チャシ・スマホ・タブレットの活用、ゲーム、インフォメーションギャップなどの多様な活動形態は大変興味深く向学心を大いに刺激された。それは又新鮮な血液が止まることなく脳の隅々まで循環していること、脳が順調に機能していることを実感する瞬間でもあった。

今後、教え子の再依頼を含め、同様の要請があればお手伝いできる力は準備できたと確信している。とは言うものの受講の事実だけが記憶に残る可能性も否定できない。それでも活動プランをあれやこれやと練りつつ待機する日々は楽しい。脳活性化、明日の活力にも繋がっている。

ことは5年前に遡る。かつての教え子から自社に

日本語が全く分からないベトナム人3名が入社したので日本語を教えてもらえないかと依頼があった。

しかし、指導経験はもちろん、関連する情報も皆無で断ざるを得なかった。

その後彼らの日本語力はどうなったか気になっていたところ、本年7月、県国際交流協会から県受託事業「日本語学習支援者養成講座」参加者募集のメールが入った。

政府の人口減少に伴う労働力不足解消をカバーする外国人労働者受入れ拡大方針を背景に「日本語教育の基礎的な知識・指導技術習得と地域の

多文化共生を推進する人材育成」が目的という。

要項には8月下旬から9月下旬までアトリオンや由利本荘市「カダーレ」を会場に毎土曜日講義・演習を一日6時間（一単位45分）を4週間行い、最終日の日本語学習教室参観・懇談がプラス4時間で合計28時間、指導陣は国際教養大学教員、受講料は無料と明記されていた。

昨今、家人とは必要最小限の言葉で済む言語生活が進み、加えて3番組同時録画テレビ買換えは視聴時間を増大させている。いづれも脳へ休養や受け身を否応無しに享受させがちになっている。

このままでは認知症予備軍

になると危機感を抱き、脳に活を入れられる具体的な手立てを模索中の案内だった。そ

こで、日本語の基礎を学び直し、脳リフレッシュ、自己啓発の好機と受講を申し込んだ。講座は現在、日本語教室で指導に携わっておられる方々、私を含め未経験者の老若男女20人ほどが県内各地から参加し始まった。

ある方が自己紹介で71歳で参加と誇らしげに話されるのを聞いて、一歳年上の私はやる気と元気を頂戴した。

ところが、授業は述語を中心に考える「日本語教育文法」に進められた。主語を中心に考える学校教育文法との違いに戸惑い、意気消沈してしま



新会員から

仁に依り 芸に遊ぶ

高桑博幸



今春3月に定年退職を迎え、半年余りが過ぎ去っていきました。4月には積年のほったらかしにしていた事や物を整理しよう、片付けようとしたのですが、計画の時点で頓挫している状況です。

退職2年前に天王南中学校に赴任した際に「自立自修」の学校教育目標を引き継ぎました。この目標の具現に迫るべく『目に見える変容』（生徒の成長を可視化すること）を目指した指導・支援を教職員と共に取り組んできました。コロナ禍であったこともあり、多々難儀することがありました。が、そのような状況下であるからこそ、何ができるか、どうすればできるか……という思いをもちながら、教職員・生徒とともに夢中で進めてきました。

そんな中で見えてきたのが、Smart Strong & Coolの（天南生SSC）でした。スマート（かしこく）、ストロング（強く・たくましく）、そして、クール（かっこよく）の、そんな中学生となることを期待せずにはいられませんでした。ことあるごとに思いを込めて生徒に伝えてきた（SSC）であります。実は自身自身に向けた言葉であったかなとひとしと感じている今日この頃です。

自分なりのSSCを意識して日々の積み重ねを楽しみたいものです。そして、「寛容な気持ちをもつ仁の人になろう。芸に遊ぼう。」と言う気持ちで、今後のゆるやかな時間の中で過していきたいものです。

初めての経験

鑑 長光



定年退職を迎えるにあたって、さてどうしたものかと考えた時、日々の自分をイメージ出来ずにいました。そんなこともあり軽い気持ちで再任用を選択しました。

ところが、4月にいざ、ふたを開けてみると、初めての潟上市勤務で、12年振りの教務主任を務めることになりました。ある先輩からは、「教務主任なんてつとまるんだが？」とエールを受け、学校の動きが分からないものの、同僚のサポートもあり、なんとか前期を終えることが出来ました。

さを実感することができたとともに、急な交代でも先生として認めてくれたことに感謝しています。そんなあるとき1年生の男の子から「先生は本当は何年生の担任なの？」と聞かれました。「先生は全部の学年の担任だよ。」「へえ、大変だね。」と子どもにも労われてクッスとしました。授業はもちろん、修学旅行に自然宿泊学習、校外学習と全校の児童と関わる機会を得て、

徐々に学校の先生として認識されつつあります。高い意識があつて始めた再任用ではありませんが、初めての経験を刺激として、身体が動く間はもう少し続けようと思っています。



会員の交流広場

▼ 男鹿市船川港 三浦 正光
つれづれなるまま

老化した体に処方薬を補充しながら一日が始まる。現役の頃に憧れた「毎日が日曜日」の日々が、傘寿ともなれば無気力・無感動な時間となり蓄積していく。運動しなければ、読書しなければと、もがこうとするが気がつけばテレビの前に座っている。

今日も楽しみにしていた野球の巨人戦。一喜一憂しながらの筋骨きのないドラマ。子どもの頃のように心ときめかせ観戦。「これでもいいのかも」と、妙な満足感に浸りながら秋の夜長が「つれづれなるまま」更けていく。

▼ 秋田市飯島 木村 守人
今年度は非常勤講師として八郎潟中学校に週4日勤務しています。主に中学1年生35名の数学の教科担任です。積極的に自分の考えを発表する素直で才能ある子どもたちです。楽しんで過ごしています。専門外の教科ですが国語と理科の授業にもTT教員として参加

しています。中学生になった気分です。新たな学びが数多くあります。

▼ 男鹿市船越 小笠原守子
絵手紙



▼ 潟上市天王 小野 久子
川崎に住む二男の家族たちと過ごした今年の夏。コロナのため秋田に来られず、主人の納骨以来のことだった。

息子たちに秋田を満喫してほしいと、竿燈、能代七夕天空の不夜城、ふるさと村など色々出かけ、なまはげ館には二度も足を運んだ。3歳の孫はしっかりと説明に耳を傾け、うなずき泣くことはなかった。孫の心に何か残るかなあ？ オートキャンプ場にも一泊した。現職の時に全国植樹祭の行われた

場所です。懐かしかった。

こうして楽しい一週間があつという間に過ぎてしまった。

▼ 男鹿市北浦 三浦 豊彦
朝6時には朝食が始まる。質素な食事なので、9時半頃になると空腹を感じる。

そこで、グラウンドゴルフの大会当日は、プラス卵で、生卵かけご飯が定番メニューとなった。中学生の頃、北浦で催された土佐犬の闘いで、飼い主たちが、出場前に数個の生卵を口移しで与えていた光景が脳裏に焼き付いている。当世風では、エネルギー補充にはバナナが妥当かな？

▼ 五城目町 八柳 知徳
俳句
六月
屈託なき笑顔はじける青葉光
生き死にも紙の一枚柿若葉
それぞれに病かかへて夏の露
あの日々もたわわなりしや栗の花
威勢よく菖蒲打ちたる子らの声

九月
見はるかす出羽の稜線秋高し
曙を待ちて十六夜西の空

立待や群雲連れて出で来たり
虫の闇御霊なぐさめ夜の更けて
稲刈を待つ黄金田や頭垂れ

▼ 男鹿市船川港 佐藤 磯男
カワセミ(カワセミ科)

スズメ位の大きさ。かつては市内の小川や沼で普通に見られていましたが、近年、数が激減し、なかなか出会いがありませんでした。昨年、ようやく船越海岸の流木に止まっている姿を撮影することができました。





会員の交流広場

▼ 男鹿市船川港 今津谷 勉
満80歳を迎えて

7月18日で満80歳になったが、その実感はない。両親が病気で他界した年齢は81歳。両親と比較すると断然私のほうが肉体的に若いと自負している。だが過信は禁物である。明日のことは誰も分からないから。天命が尽きるまで、日々有意義に生きたいと思う。
目指せ90歳。

▼ 男鹿市角間崎 角崎 紘二

ボケ防止と頭を使うことを考えて、令和3年12月より日記を付け始めた。長く続かないと思っていたが未だ続いている。内容はその日の行動やその日感じたことなどを書いている。

長く書くこともあれば、4〜5行で終わることもある。日記を付けることで、辞書を引く機会が増えた。一日

一万歩以上歩くことと、日記は続けようと思っている。コロナの収束が待ち遠しい。

▼ 男鹿市松木沢 中田 博道

3月で退職し、夫婦で旅行する機会が増えました。県内の観光スポットへドライブし、温泉につかり、美味しい食事をいただく「秋田の魅力再発見」の旅です。ところが、つつい食べ過ぎて腹部が徐々に成長してきました。少しばかりのトレーニングではなかなか改善しません。暴飲暴食が原因とわかっているのですが。

▼ 男鹿市払戸 木元 正子

絵手紙



会員のご逝去

小野 修 夫氏

(令和3年11月27日)

浅野 浩 己氏

(令和4年1月4日)

安藤 松治 郎氏

(令和4年1月25日)

心よりご冥福をお祈りします

グラウンドゴルフ大会

第10回グラウンドゴルフ大会が6月27日(月)に大瀧村多目的広場で開催された。今年度は記念大会として会員以外の愛好者にも案内し、14名が参加した。参加者は4コース32ホールで熱戦を繰り広げた。

大会結果 (数字は打数)

- 優勝 佐藤 弘 (77)
- 2位 浅井 繁樹 (77)
- 3位 田沼 隆夫 (78)
- 4位 伊藤 章 (80)
- 5位 今津谷 勉 (81)
- ホールインワン賞(数字は回数)
今津谷 勉② 佐藤 弘①
浅井 繁樹① 田沼 隆夫①
小笠原 守子①
- 最高齢参加者賞 佐藤 松平

受章者紹介

瑞宝双光章

教育功勞

角崎 義 正氏

令和4年4月29日

令和4年度 役員一覧

顧問	小玉啓太郎
会長	佐藤 磯男
副会長	伊藤 章
副会長	村木 康子
副会長	浅井 繁樹
理事	伊藤 章
理事	村木 康子
理事	浅井 繁樹
理事	柴田 知徳
理事	八柳 知徳
理事	田沼 隆夫
理事	八柳 知徳
理事	進藤 吉彦
理事	栗森 貢
理事	加藤 牧子
理事	浅井 繁樹
理事	桐生 登志夫
理事	中田 博道

編集後記

今年度、本会事業の総会と玄友会はコロナの感染再拡大により残念ながら開催できなかった。次年度は本来の形で開催できることを願いたい。